資料№２

「第19回島根県地域訓練協議会」における意見・要望への回答について

　令和2年11月11日に開催しました「第19回島根県地域訓練協議会」において、委員の皆様からいただきましたご意見・ご要望について各訓練実施機関等の取り組みや今後における対応を下記のとおり取りまとめましたので、ご確認いただきますようお願いします。

1. **IT化等時代の流れに対応できる人材の育成について**

〈委員からのご意見・ご要望〉

　新型コロナウイルスの影響でリモートワークやテレビ会議等今まで経験したことのないことに取り組まなければならない状況が生じ、多くの中小企業から、意識はあっても技術面で対応できないという声が聞かれる。

　企業が労働生産性を向上させていくため、今後、労働者のIT技術活用力がさらに求められる時代になっていくことから、刻々と変化していく技術面に対応できる人材の養成を求める。

【島根県商工労働部雇用政策課】

　島根県が主体である公共職業訓練については、国の「職業能力開発基本計画」を踏まえ、「島根県雇用対策審議会」の審議により策定・進行する「島根県雇用対策計画」をベースとし、地方職業能力開発実施計画等により実施しています。

　委員のご指摘については、次期「職業能力開発基本計画」での技術の変化に対応した人材育成等の方向性が「島根県雇用対策審議会」の審議に反映されるように努めてまいりたいと考えています。

【独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 島根支部】

1. 離職者訓練

　離職者訓練では、生産現場においてＩＣＴ技術を利用した生産システムの保守・管理のための知識と能力を有し、工場内における生産システムの開発及び保全技術者や工場内における生産設備のネットワークの保守・監理技術者を養成する、「スマート生産サポート科」（募集科名：ＩＣＴ生産サポート科）を令和元年度より実施しています。

また、令和3年度は、当該科の定員を年間40名から年間48名に増員することとしています。

1. 在職者訓練

在職者訓練では、第4次産業革命に対応しＩｏＴ技術等の基盤となるネットワーク技術を習得するコースとして、前年度に引き続き、「製造現場におけるＬＡＮ活用技術」と「ＶＬＡＮ間ルーティング技術」の2コースを計画しています。さらに、令和3年度においては「軽量Ｒｕｂｙによる組込みシステム開発技術」の1コースを新たに計画しています。

また、上記技術者向けの訓練のほかに、ＡＩやＲＰＡなどの新技術動向、業務のＩＴ化、ＩＴスキル活用等をテーマとした訓練を実施することとしています。

1. その他

当機構の基盤整備センター（東京都）では、第4次産業革命に対応する職業訓練カリキュラムの開発や職業訓練指導員向け研修の実施・検証を行っております。島根支部でもこれらの結果と島根県内の人材ニーズ・人材育成ニーズにもとづき、新たなカリキュラムの検討やそれに伴う指導員の育成を進める予定としております。

今後は、当支部指導員に、職業能力開発大学校が開催する「第4次産業革命に対応した訓練に係る研修」を受講させること等により、第4次産業革命に対応した訓練実施に向けて準備を進めていきます。

**（２）技術・技能の習得に合わせたコミュニケーション能力、発想力などの養成について**

〈委員からのご意見・ご要望〉

　企業側が訓練生に求めることについて、受講分野の技術・技能が身について

いることは当然のことであるが、あらゆる分野の企業が全ての世代に求める人

材像として、「コミュニケーション能力、協調性があること」、「好奇心があり自

らチャレンジする意欲のある方」、「柔軟でイノベーティブな発想ができる感性

豊かな方」という調査結果が出ているので、参考にしていただきたい。

【島根県商工労働部雇用政策課】

島根県立高等技術校の施設内訓練では、訓練修了後の就業に向け、コミュ

ニケーション能力や発想力を養う訓練カリキュラムを設定しています。

コミュニケーション能力についての例として、「美容科」では「接客法」で

接客の基本や電話対応等を、さらには美容実習に向けた訓練に取組み、「自動車工学科」では顧客管理のためＣＳ（カスタマーサービス）講習会を受講し、身だしなみ・言葉遣い・名刺の扱い方・お客様対応等を修得する等しています。

発想力についての例として、「ｗｅｂデザイン科」では訓練の仕上げとして

テーマを決めてｗｅｂサイトを制作し校内発表会を開催することで、顧客ニ

ーズに応える創造力や発想力を培い、「美容科」では校内ブライダルショーを

開催し、訓練により習得したヘアメイクや着付けを外部プロ（音響・照明・

映像）の協力を得ながら創造・表現する等しています。

【独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 島根支部】

離職者訓練では、各コースの実習訓練において、受講者一人一人が個別に取り組む課題だけでなく、複数人がチームで取り組む課題を設けています。チームで取り組む課題は、チーム内の意見交換や役割分担、仕上がりの確認等が必要であり、その実習課題を通じてコミュニケーション能力の向上と発想力の養成を図っております。

一例として、住宅リフォーム技術科では、模擬家屋における部屋のリフォーム実習を行うにあたり、各チームでリフォーム内容について意見を出し合い、内容を検討して、チームとしてのリフォームプランを作成しています。

また、ＩＣＴ生産サポート科、ビジネスワーク科では年間各２コースのうち1コースに、コースコミュニケーション能力の向上を目的とした、ビジネススキル講習を一部訓練に組み入れています。

在職者訓練では、生産性向上支援訓練として、生産管理や品質管理といったテーマに加え、組織力の強化、技能・ノウハウの継承、企画力向上のための論理的思考、提案型営業手法などのコースを実施しています。訓練では、必ずグループワークを取り入れることでコミュニケーション能力の向上と受講者同士の意見交換を通じた発想の拡がりが期待されます。

**（３）訓練受講生に対するあっせん及びマッチング支援について**

〈委員からのご意見・ご要望〉

　 訓練希望者に対して、やりたい仕事に就かせるために訓練受講を勧めると

　いう考え方がある一方で、あらかじめ希望者自身の分析を行い、企業側の人

　材ニーズと合わせ、向いている仕事を発見させる仕組みも大切ではないか。

 適職を意識付けした訓練を行う中からやりがいを見つけていくことができ

れば、修了後のマッチング率も向上していくものと思われる。

【島根労働局職業安定部訓練室】

　各ハローワークでは、職業相談を行う中で、求職者が有する技能、知識等と労働市場の状況等を比較し、職業訓練の受講が適職への就職を実現するために必要なものであるかを慎重に判断したうえで的確な受講あっせんを行うよう努めています。特に、職業訓練による能力開発が必要であるものの、自己理解や職業理解が乏しい者に対しては、ジョブ・カードを活用して訓練修了後を見据えたキャリアプランの作成支援を行い、適職に就くための訓練受講の必要性を明確化したうえで受講あっせんを行っています。

　受講生に対しては、入校後早い時期から訓練実施機関の就職支援担当者と連携を図り、定期的な求人情報の提供、訓練終了後の予約相談、訓練実施機関への訪問相談等を実施し、訓練受講と就職活動が両立できるよう配慮しています。

就職支援は、ハローワーク職員による担当者制で行い、未就職修了者に対しても訓練修了後概ね3ヶ月後までを目処に一貫した個別支援で対応しています。

特に、訓練修了1ヶ月前時点で就職が未内定の者に対しては、相談頻度を多くする等支援を強化して、訓練修了時点で再就職先が確保できるように努めています。また、個別支援を行うに当たっては、受講生のニーズ、仕上がり具合及び労働市場の状況等を総合的に見極め、状況に応じて個別求人開拓を実施するなどきめ細やかな支援にも取り組んでおります。

　今後も、キャリア形成の方向付けから相談援助までを一貫して行い、1人1人の受講生が適職に就けるよう、能動的な支援に努めて参ります。